

JPTA 能登国際女子オープンテニス 2015

雨に煙るコートで 熱い戦いを展開

雨の中、気迫を見せるリー（左）と岡村



シングルス

優勝 リー・ヤーシュン
(中華台北)

準優勝 岡村恭香
(クロスカンパニー)



記念撮影に臨む（左から）佐藤直子大会実行委員長、岡村・岡田上、ジャン・イ、持木町長

ダブルス

優勝 ジャン・スジョン、イ・ソラ
(韓国)

準優勝 岡田上千晶・岡村恭香
(エームサービス) (クロスカンパニー)

能登 能登国際女子オープンテニスは8月30日から9月6日にかけて、藤波運動公園で開かれました。
9月5日にはダブルスの決勝があり、ジャン・スジョン、イ・ソラの韓国ペアが優勝を決めました。翌6日、シングルス決勝は降りしきる雨の中で実施され

ました。2時間以上にわたって激しい攻防が繰り広げられ、勝負は最終セットにもつれ込みました。タイブレークの末、リー・ヤーシュンが栄冠に輝きました。リー選手は今回初優勝です。岡田選手は今大会のダブルスでも準優勝に入賞していて、両者の今後の活躍が期待されます。

子ども議会

能登町子ども議会が8月27日、議事堂で開催され、町内4中学校から12人の子どもの議員が登壇。町の発展を願い、疑問・質問・要望を町の執行部にぶつけました。



議長を務めた柳田中3年の大路耕生さん



山ノ内莉々さん

(柳田中3年)

人材育成のため、小中学校にも
鳳雛塾のような取り組みの実施を。

【質問】 グローバル化には人材育成が大切。英語力向上のため、ALTの授業の増加を。また、自習室や塾がないので、能登高校での鳳雛塾のような取り組みはできないか。
【町長】 指摘のとおり英語力向上は重要。ALTの授業増ではなく、教員の英語力・指導力の向上で授業を充実させることが重要。小中学校では教育環境の充実に努めてきた。塾はないが、補習や補充学習などで学力向上に努めている。



志賀浦昌実さん

(松波中3年)

オーストラリアの中学生を町へ招き、
国際化と町の活性化につなげては？

【質問】 毎年、町の中学生がオーストラリアでホームステイをしている。オーストラリアの中学生も能登に来てもらえば、空港利用や町の活性化、国際化につながるのでは。
【町長】 一週間ほどのホームステイ受け入れが必要と想定されるが、中学生は部活や勉強、両親は仕事時間の調整などが必要になるなど、問題が考えられる。相手方の意向があれば検討するが、難しい。国際交流はジャパンテントなどの事業を活用するのも一つの方法。



岡田香菜子さん

(柳田中3年)

通学時、各方面のバスが集中し危険。
混雑しないよう調整を。

【質問】 柳田中学校の最寄りのバス停は登校時、各方面のバスや送迎車などで混雑して危険。信号の設置やバス停の拡張などの対策や、時刻表の調整の働きかけを。
【町長】 バス停付近は朝の30分間に8台が行き交っている。路線バスの時刻は重なっていないが交通事情などで混雑が発生している。機会を見て警察、バス会社、学校などの関係者で話し合いをする。保護者の送迎の際もマナーやルールを守ってほしい。



中野愛唯さん
(柳田中3年)

通学路の安全確保のため、消雪設備、
街灯、乗降場所や待合所の整備を。

【質問】 学校の坂道で消雪装置の水が凍って危険。通学路は街灯が少なく、暗い。ささゆり荘横のバス停では除雪の雪が捨てられる。安心して乗り降りできる場所を。

【町長】 消雪装置は川の水を使っているため、気温の変化を受け凍りやすい。パトロールを強化し、凍結防止を図る。街灯については学校と相談し、設置していきたい。バス停周辺の除雪については委託業者へ周知徹底し、安全対策に努める。



椿原克音さん
(松波中3年)

将来は町で働きたい。若い世代増加に
向け、町はどのような工夫をしている？

【質問】 若い年代の人口が減れば、祭りなどの地域行事ができなくなったり、農地が荒れていく。町は若い人たちを呼ぶ工夫を、どのようにしているのか。

【町長】 U・I ターンの促進のため、企業や個人に対して支援している。定住には仕事、住宅、教育や医療などの環境、周囲との人間関係が大切。「町定住促進協議会」を発足させ、ハローワークに出てこないような仕事や、空き家の情報を提供するほか、相談も実施している。



廣瀬英大郎さん
(小木中3年)

魚の漁獲量が減少している。
捕る漁業から育てる漁業への転換を。

【質問】 魚の漁獲量が減少している。海から遠い地域でも空き家などを利用し、海洋深層水をつかった魚介類の養殖をしてはどうか。関連企業の誘致などの予定は。

【町長】 以前、中間育成を行ったことがあるが、海水温変化が大きく養殖には適さなかった。海洋深層水は取水量が少ないが、水温が一定で養殖に適している。今後企業や大学と連携して進める。企業誘致には取り組んでいるが、進出には至っていない。



時長みれさん
(能都中3年)

人口減少、少子高齢化に対して
町が行う具体的な取り組みは？

【質問】 「ふるさと・能登町に貢献する」というテーマで学習している。町の活性化に向けて私たちでも貢献できることを見つけたい。町の具体的な取り組みを教えてほしい。

【町長】 少子高齢化対策として子ども医療費の拡大などの対策を行っている。定住を促すために雇用促進緊急助成金や定住促進助成金、第一次産業従事者に対する支援も行っている。皆さんも活気あふれる町の姿を想像しながら、人口減少対策について考えてほしい。



水元紅李さん
(能都中3年)

キリコの日本遺産認定はチャンス。
他地域と連携してあばれ祭のPRを。

【質問】 「あばれ祭」を町だけの祭りとして終わるのでは、人の流れが単発的になる。能登全体の他のキリコ祭りと連携して、CM 放映などで大規模なPRを。

【町長】 今年度はPRのため、あばれ祭のポスターやチラシを製作し、全国に発送して周知した。CMの影響力は大きいと思うが、金額的に困難であると考える。キリコ祭りの日本遺産認定を機に、県主体の活性化協議会を設立しており、連携して取り組んでいきたい。



小川楽生さん
(能都中3年)

障害者に優しい町づくりにむけて、
どのような取り組みをしているのか。

【質問】 「私が町長になったら作文」で障害者に優しい町づくりを提案した。手話通訳や要約筆記などといった福祉的な取り組みはどこまで実行に移しているのか。

【町長】 公共施設のバリアフリー化に取り組むほか、手話通訳や要約筆記の奉仕員養成に向けて入門講座や基礎講座を実施している。障害のある人はもちろん、全ての住民が安心して生活できるよう、皆さんの声を大切に取り組んでいきたい。



大森寛史さん
(能都中3年)

選挙権年齢が18歳に引き下げられた。
新有権者への教育方針は？

【質問】 能都中3年と能登高3年を対象としたアンケートを実施したところ、政治や選挙の関心が低かった。取り組みが必要と考えるが、町はどのような方針を持っているのか。

【町長】 町では約260人が来年夏の参院選に新有権者になる。町選挙管理委員会では、能登高校で選挙制度についての授業、模擬投票の実施を予定している。現在の有権者、未来の有権者に対して、政治や選挙に対する意識の向上を一層図っていきたい。



高倉美来さん
(松波中3年)

授業への理解度を上げるため、一人
一台タブレット端末を導入しては？

【質問】 タブレット端末を一人一台配布して、授業で活用してはどうか。自分の考えを発表するときや、問題の答えを集計するときに効率が良く、学習の成果が上がるのでは？

【町長】 指摘のとおり、先行事例では生徒の学びに良い成果が上がっている。一人一台の導入は時期尚早だが、今年度は新たな授業スタイルを研究してもらうため、先生用として各学校に2台のタブレットを導入した。今後も国の動向を見守りながら検討していく。



奥成恵子さん
(小木中3年)

高齢者や障害者が住みやすい町に。
バリアフリー化を進めてほしい。

【質問】 高齢者が暮らしやすい町づくりが必要。高齢者や障害者をサポートする設備があれば、観光などで訪れた人も障害なく楽しむことができる。バリアフリーへの考え方は？

【町長】 道路では段差解消や視覚障害者誘導ブロックの設置、公共の建物でもスロープの設置などを行いユニバーサルデザインを推進している。施設のバリアフリーだけではなく、住民一人一人が優しく手助けをすることが大事。住みよい町づくりに協力してほしい。



地域に住む人自身が 地域づくりのエンジンに

いしかわ地域づくり円陣 2015・第33回地域づくり団体全国研修交流会石川大会が、七尾市を主会場に 8月29日から31日にかけて実施されました。町内では2団体が分科会を開き、全国から集まった参加者が議論を交わしました。

私たちは奥能登で
「世界遺産」を育てている

日本の宝「のとキリシマツツジ」その魅力と保全

柳田教養文化館では約20人がNPO法人「のとキリシマツツジの郷」が行うのとキリシマツツジの保全・活用を通じた地域づくりのアイデアを



花の活用に向けて様々なアイデアを出す参加者

グループワークで出たアイデアをまとめる皆さん



ワークを実施。会員の高齢化による継承者問題や情報発信の難しさについて、アイデアを書き出し、まとめました。「キリシマツツジ開花前線」を発表することや、花が赤く古木が多いため、還暦の記念植樹などを進めるといったア

アイデアが発表されました。柳田植物公園では、のとキリシマツツジの記念植樹を行いました。植樹されたのは樹齢5年の苗木で、周辺はのとキリシマツツジの名所となるよう、さらに整備が進められる予定です。



のとキリシマツツジの名所作りの第一歩として、苗木を植える参加者

きつと見つかるはず

あなたのさがしもの

「月収40万円の農家民宿」で地域再生・春蘭の里



日本遺産に指定されたキリコの前で記念撮影

宮地の交流宿泊所「こぶし」では、農家民宿で地域おこしに取り組んでいる「春蘭の里実行委員会」の活動について議論が交わされました。

実行委員会の多田喜一郎事務局長は、若い人の定着のため、月収40万円を目標としていることや、事務局で予約を受付して、宿泊者ごとに最適な宿を振り分けていることなど、農家民宿運営の工夫を紹介しました。分科会の参加者は体験メニューをこなしたり、実際に農家民宿に宿泊したりして、利用者の視点で魅力を体験しました。分科会参加者からは次のような感想が述べられました。

- ・春蘭の里では、住む人が誇りをもって、景観を維持し、環境を守っている。地域づくりは行政主導ではなく、地域自ら行うことが大切であると感じた。
- ・料理の大部分は女性に関



「春蘭の里」の活動に対して、感想や提言を発表する参加者

わっている。活動を継続するためには、特定の人に負担がかからないようにする必要がある。料理の講習を行うなど、お母さん同士のネットワークを充実させてはどうか。

- ・春蘭の里には日本の原風景が広がっている。日本という国や文化を維持するために、活動を広げてほしい。



春蘭の里での分科会に参加した地域づくり団体全国協議会会長 岡崎昌之さん

春蘭の里の分科会の舞台は宮地・鮭尾という地区です。地名は地域づくりの原点として重要な価値を持っています。日本には、約10万の集落があるといわれています。その集落にはそれぞれに人が住み始めた価値があります。

国は地域が集まって構成されたもので、政治などで変化します。しかし、人は地域からは逃れることができません。地域に育った子どもたち一人一人が、「自分の原点が地域にある」と認識して生きることが大切です。

生き生きとした国や地方を次の世代に残すためには、地域づくり活動が活発に行われることが必要です。